

その他、“海事法役に立つはなし”
松井弁護士 の書籍販売中!

その他、“海事法役に立つはなし”
松井弁護士 の書籍販売中!

MTI、都内でフォーラム開催、船舶データ活用などの研究紹介



フォーラムの様子

船舶データ活用などの研究紹介

MTI、都内でフォーラム開催

日本郵船グループのMTIは11日、恒例のフォーラム「Monohakobi Techno Forum 2016」を都内で開催し、船舶データの活用や安全などに関する研究と今後の取り組みを紹介した。冒頭のあいさつでMTIの田中康夫社長は「MTI発足当時からオープンコラボを基本的な考えとして、みなさまの協力を得て活動を行っている。当社ではチャレンジすることを大切に、果敢に取り組んでいく」とした。

最初に、MTIの船舶技術グループの三村雄一氏が『船舶管理会社との連携による船舶機関データ活用の取り組み』と題して講演。船舶機関データ活用の目的を「安全運航の推進とコストセーブ余地の見える化」とし、その基盤となるデータ収集プラットフォーム「SIMS」の導入船が計170隻に達していると明らかにした。また、目的達成のために必要な、管理対象船の最新状態や代表的な機器データのトレンドのモニタリングなど機能に関する取り組みも紹介し、「当社開発のアプリケーションは使えるレベルになってきた。今後は、皆さまからのフィードバックや船用機器メーカーの知見に基づいてロジックの改良に取り組み、より信頼性の高いものにしていきたい」と語った。

続いて、物流グループの粟本繁氏が『NYK自動車物流事業への技術貢献』について話し、完成車物流現場の見える化活動を進める、完成車の輸送トラッキングやインアウト管理、拠点内位置管理の技術検討を紹介した。

このほか、営業グループの高橋泰彦氏が「動揺・振動・耐震試験」、シンガポール支店の角田領氏が「シンガポールでの活動と国際連携プロジェクト」、船舶技術部門の安藤英幸氏が「船舶IoT・ビッグデータ」、船舶技術グループの橋元彩子氏が「新たな機関事故予防保全技術の開発」をテーマに、それぞれ講演した。

講演後には懇親会も開催した。

[記事一覧に戻る](#)

[この記事を印刷する](#)